

# AMCWA会報

NPO法人 アジア母子福祉協会

東京都品川区西五反田2丁目15番7号

ジブラルタ生命五反田ビル3F-ITL

mail: tokyo@amcwa.org tel/fax: 03-6424-5681



## ひとびとによりそい、変わらぬ支援を

アジア母子福祉協会は、**2000年3月**に結成された。まもなく四半世紀となる。

実は、前史がある。**PHP**研究所によるミャンマー研究委員会で、**90年代**半ばからミャンマーの現状分析、政策提言を行ってきた。初代委員長は岡崎久彦元駐タイ大使、2代委員長は弊会現理事長、山口洋一元駐ミャンマー大使である。研究会は一定の成果を収め解散したが、メンバーの一部が「研究だけでなくミャンマーの役に立ちたい」と**AMCWA**を結成した。



当時、日本に滞在していたウインナイン氏の尽力により、ミャンマー最大の**NGO**、ミャンマー母子福祉協会（**MMCWA**）のカウンターパートナーとなった。その**MMCWA**

傘下の幼稚園に対し、什器備品や改修・修繕などで支援事業をスタート。同協会理事長の来日や当協会のミャンマー訪問等で、交流が深まって行く。

さらにヤンゴン等の病院へ乳癌はじめ各種診断装置、**AED**、医療器具などを贈呈した。極東ノートからの**20万冊**ノート贈呈、新宿区の放置自転車の活用についても弊会が仲介した。ミャンマーの向学心あふれる若者に対し、学業支援のための「里親制度」を設け、同制度を活用して医大進学した青年も生みだしている。

これらの事業は、首都ネピドー近郊にあり乳児

から**20代**まで**1,000**人以上が属する児童養護施設、サマタン園支援につながる。ミャンマーにも駐在したことのある外交官、梁井新一氏の未亡人より託された基金で弊会が奨学金制度を創設し、現在、在籍大学生**29**人に支給している。

さらに制度創設の過程で**100ha**にもものぼる農園の改善も重要な課題と判明し、現状確認や（公財）オイスカ様の協力による人材育成を開始している。



弊会のもう一つの活動拠点は、アフリカのマダガスカルである。外来樹を在来樹に植え替えることによりマダガスカル其自然再生を図る活動、桜の植樹、児童養護施設の支援に取り組んでいる。

この活動は日本マダガスカル協会とも連携し、クラウドファンディングには多くの方々に賛同いただいている。

当協会はミャンマー及びマダガスカルで、各々の人々の役に立ち、地域のためになる事業を愚直に展開してきた。もちろん会員だけでなく、太陽生命やオムロンなどの各種企業、連合、**UA**ゼンセン、東電労組ほかの協力・支援も大きい。

途上国は政情が安定せず、国の前途に懸案をかかえている国が多く、ミャンマーにおいても軍政、民政、軍政と政治が揺れ続けている。

私たちは、軍政にも反軍政にも組みせず、政治的には中立である。

## ご支援ありがとうございます

アジア母子福祉協会常務理事 柳澤信一郎

おかげさまで2022年度のミャンマー支援活動も予定の成果をあげることができました。新型コロナ、クーデターにより今年度も訪問できませんでしたが、MMCWAへの21年度支援による傘下6幼稚園の修繕結果を写真で確認したうえで2月に理事長とZoom面談しました。これにより5幼稚園の修繕費と新型コロナ対策費を見積書



確認のうえ本部へ送金しました。

梁井新一奨学金サマタン園新規大学生15名とZoom面談のうえ送金しました。写真はZoomスクリーンです。

その際、昨夏に支援したトラクターの次の支援農機として肥料などの運搬に活用できる三輪トラックが提案され、柳澤錬造基金よりあわせて送金しました。新年度はMMCWA及びサ

マタン園を訪問し、今後の支援の進め方を話し合いたいと思います。なお梁井新一奨学金は新規支給開始のために新たな財源が必要です。心当たりありましたら是非ご一報ください。



## マダガスカルPJ 2022 成果と展望

アジア母子福祉協会 会員 濱口光

**お**かげさまで22年度のマダガスカルプロジェクトは完了しました。今回は原田会員が事務局を務めている日本マダガスカル協会との共同事業として取り組みました。



20, 21年度、石原専務理事の逝去や新型コロナ流行でリモート実施となったこともあり、本年度はいったん立ち止まり現地に足を運びAMCWA自らの目でプロジェクトの進捗状況を把握したいと願っていたところでした。折よく原田会員が昨年8月からこの3月まで大豊建設(株)の業務で現地赴任され、私が連携し現地のアジャさんと協力して、プロジェクトをすすめることができました。

首都の南80キロ、アンバトランピ児童園への10月訪問では、これまでの植樹地計10か所についてのGPSデータによる確認と面積の計測を行いました。また、2018、20, 21年度合計の購入苗木は計約4500本、うち生存樹約2, 200、枯れ木800、不明1, 500と確認されました。生存樹は樹種ごとに数えて集計しています。

生存状況を左右する要因として判明したことは、高温多湿な低地(～標高500m)から調達された苗木は標高約1, 400mの比較的冷涼で乾燥したアンバトランピには

不向きなこと、火山灰土壌で比較的肥沃ではあるが樹木の成長には牛糞等の有機肥料の投入が望ましいことなどです。

また傾斜の急な斜面に植えたため、雨で土壌ともに流されたり、植付時の苗木ポットの乱暴な扱いが発育を阻害している例、植樹地に内外の人、動物が立ち入り若木を損ねていることなどが分かりました。

1月の訪問では米**150Kg**、油**24L**、砂糖等を寄贈するとともに職員と植樹地の雑草を取って環境改善を行い、約**800本**の枯れ木の植替えも行いました。

2月の訪問では放流した淡水魚の生育状況も調査。魚は余り残っていませんでした。また園内で植樹を行う土地は余りないことも判明、園内での今後の作業は施肥や枝取り・間伐などで生育促進し枯木を追加植樹することが主になります。

今年度経費は原田会員の赴任とアジャ氏との連携により約**36万円**で済み、寄付も**31万円**寄せられました。改めて御礼申し上げます。

なおマダガスカル、ミャンマー、弊会全般へのご寄付を引き続き受け付けております。**1**ページのAMCWAアドレスか事務局**03-3936-3531**(柳澤)へ電話でご連絡ください。



## ミャンマー 小学校支援

アジア母子福祉協会常務理事 小池匠

**ダ**ーバイン村の小学校を支援しているヤンゴン在住の



内科医NiNi先生より**22年6月**、メールをいただいた。

ミャンマーでは軍事クーデター後、インフレが進行し、生活状態が悪化、政府からの**3000円**余りの教員月給では生活できないので給与補助をしてほしいとのこと。また**3**

年半前の訪問時に寄贈した**4台**の自転車の内**2台**が壊れたので買ってほしいとのことだった。田舎では舗装道路が少なく、気温、湿度も高いので機器類の痛みは早い。

友人のミャンマー人歯科医師は治安が良くないと忠告してくれたが、教員の経済的な理由で子どもの教育の機会が失われれば将来の国家の行く末は暗いものとなる。

私は多少の危険があっても行くことにした。以前日本人はビザなし渡航ができたが、現在はミャンマー保険省の医療保険に入ったうえで、ビザ取得が必要だ。

ミャンマー入国時に**3枚**の書類記入と抗原検査が必要となり入国も煩雑になった。直行便はなくバンコク経由となり航空券代は**3倍**になっていた。

こんな事情の中**11月20日**ミャンマーに入国、**11月21日**NiNi先生とともにダーバイン村に入り、集めた寄付で**4人**の教員に**1人**当たり約**15000円**を支給した。約**180名**の子どもたちには各々キャラメル**1箱**とマープルチョコ**1つ**を配り、

その足で自転車屋に行った。**2台**と言われていたが次回いつ来られるかわからないので**4台**購入した。**3**年半前、**5,000円**程度



だった自転車はインフレで**12,000円**になっていた。

翌日、監事の寺井さんの計らいもあり大使館にて丸山市郎大使と面談が出来、AMCWAの活動を報告しミャンマー情勢も伺った。

ミャンマーは治安も急激に悪化し、夜独り歩きしても安全だったヤンゴンではもはや存在しない。帰国時の空港では職員によるチャットの強制両替やこのお金はもう使えないと取り上げられそうにもなった。空港職員も政府のコントロール下にならないように思えた。

多少危険でも、呼ばれれば私はまたヤンゴンに入国する。学校と教育さえ失われなければ国家を復興させることはできると私は思うからだ。

★総会開催★ **5月20日**土曜日午後**2時**より、日比谷、国際ビルの日本倶楽部にて総会を開催します。

AMCWAとミャンマー、マダガスカルが分かります。ぜひご参加ください。



■山根隆治副理事長・元外務  
副大臣が昨年(2022年)12月  
10日、逝去されました。享年74。  
会報 39 号記事を再掲し、朋友  
・寺井融監事の「追悼文」を転載  
します。(編集部)



## ミャンマーへのささやかな貢献 山根隆治

50 年来の友である寺井君からのお誘いで、アジア母子福祉協会に加入をさせていただいてもう 7 年になります。

私が外務副大臣をしていた時、彼がミャンマーの様々な問題について熱く語ってくれたので、本来アジア地域は私の担当エリアではなかったのですが、玄葉大臣と山口副大臣の了解を取ってこの国だけは私が担当することになりました。当時、西側陣営ではまだまだ軍事政権の悪しきイメージが強く国際社会に一刻も早く受け入れて欲しいというミャンマーの願いは果たされていませんでした。そこで欧米への開扉の先導役を日本が果たさなくてはと、様々な施策をとっていくことにしました。その際、アメリカの国務省には密な連絡を取っておくように指示しました。その後クリントン国務長官など各国の指導者がミャンマーを訪問するなど国際社会への復帰が実現することになっていきました。

更に本会としては労働組合の連合、東京電力労組からの支援金の協力もいただけるようになるなど、寺井君との二人三脚で一定の成果をあげてこられたことは、私にとり大きな喜びともなっております。(会報 39 号再掲)

## 庶民派の叩き上げ・山根隆治元 参議院議員 (元当協会副理事長)

寺井 融



上京し、池袋に部屋を借りる。  
山根隆治君は高田馬場育ち。  
お互い豊島区(東京都)に住んで  
いた。

西村栄一さん(民社党第二代委員長)の公設第一

秘書、大松明則さん(後に富士社会教育センター理事長)に誘われて、民社党豊島総支部主催の「党綱領学習会」に参加した。たしか 1968 年、チェコ事件の年の 9 月初めのことでなかったか。

そこで出会ったのが、山根君である。彼も大松さんに誘われたクチで、二人とも 20 歳前後(彼は半年若い)だった。その日、同時に民社黨員となる。

選挙がある頃、山根君らと服部スエミ総支部長宅に集まり、ポスター貼りに出かけた。ペアを組んだ老黨員は「いまポスターを貼っていても、官憲に追われる心配はない」と語る。戦前、右派の社民系であったとしても、無産政党系の活動は厳しかったのだ。

総支部長宅に戻る。夕食は、服部さんが揚げるトンカツと熱い味噌汁。それに炊き立てご飯に白菜の漬物。すべてが美味しかった。

私たち青年黨員の間では、服部区議のことを、誰も「総支部長」とも「服部先生」とも呼ばず、「服部のオバチャン」で通っていた。

もう一つの思い出。

練馬のカネボウ労組(全織同盟)の女工さんと一緒に、池袋駅西口で「お産に健康保険を」の署名活動を行った。

当時、自民党は「財源がない、お産は病気ではない」と健保適用に反対だった。社共両党も「福祉政策は、資本家に給をしゃぶらされているだけ」と否定的である。

民社党は「福祉国家の建設」や「全国民の中産階級化」を掲げてつくられた政党であり、「北欧でもお産に健保は適用されている」と主張していた。

学生服姿で、署名簿を持って立っていると、80 歳ぐらいのおばあさんがやって来て、耳もとで「アンタ、失敗したの」と問われる。耳たぶまで赤くなった。山根君も、私も、「新しい出会いがあるかも」と張り切って参加したのだが、それは叶わなかった。

その後、山根君は、西田八郎代議士の秘書に。当方は、民社党本部職員となって行く。

30 代に入って、彼は埼玉県 of 川越市議選に挑戦

する。資金は貯めた500万円。市議選に1000万円かかると言われていた時代の話である。結局、それだけでは足りず、追加の300万円を借りて当選した。借金は、議員活動のかたわら、夜のコンビニのバイトなどを3年間して返した、と聞く。

山根君は川越市議4期、埼玉県議2期、参議院議員2期務めた。

その県議2期目の選挙のとき、有力新人が出馬した。

「オイ、大丈夫か」

「大丈夫さ。毎日、300軒訪ねて『後援会報』を配っているから」

その選挙も勝った。それで「次、何をを目指す？」と訊ねる。

「県議までは自分の力で拓くこともできる。国会や首長となると運も必要さ。目の前の課題を淡々とこなすよ」

そのご褒美が、参議院議員だった。

大松さんの呼びかけで山根、寺井も加わって、服部宅を訪問したことがある。90歳を超えていたスエミ元総支部長は「みんな立派になって」と涙ぐみ、寿司桶とビールで歓待してくれた。

その帰り道、池袋で「実は悩んでいるんだ。いま外務副大臣の打診が来ているが、英語が不得手な自分が引き受けてよいものか」と山根君が切り出す。

即座に「受けるよ。外務省には通訳がいる。西独のゲイシャーも、外国語はできなかった。けれども、名外相と言われていたんだぜ」と私。

彼は、野田佳彦政権の外務副大臣となり、ハイチや南スーダンなどに飛んだ。ミャンマーのティンセイン大統領が来日した際も、民主的な労使関係や企業別労働組合の重要性について説明した、と聞く。その後、同国から日本の労働運動視察団も来ている。国際派の成果といつていい。

一方、彼は「おばちゃん、山根です」と誰にでも気楽に声をかける。美樹子夫人によれば「困っている人をみると、助けたくなる質でしてね、創価学会の人からの頼みでも、懸命に答えていましたよ」と

のこと。根は、いつも笑顔の庶民派なのである。

参院3期目への挑戦は、山根君の選挙人生で、はじめての落選となってしまった。しかし、引き続き埼玉民社協会副会長やミャンマー支援のアジア母子福祉協会副理事長などを務め、世界連邦の活動も熱心だった。ウクライナ支援のコンサートも開いている。

いま、大松さんや鈴木匡さん（元富士社会教育センター副理事長）、高谷清君（元神奈川県議）に山根君、私の5人が同人だった50数年前発行の「伝習」誌を読み返してみたい。何を書いていた？

コロナ禍でも、よく会った。駅で待ち合わせ、ファミリーレストランに行く。ウクライナ戦争から日本の政権交代まで2、3時間、話し込んだものだ。※以上、公益財団法人富士社会教育センター発行『自治レポート』第79号（2023年2月20日）より。

【付記】山根君は仏教徒である。それだけにミャンマーへの思い入れが強かった。

2011年10月のミャンマー外相の日本訪問のとき、山根君から「ミャンマー政府の意向を探ってほしい」との要望があった。ちょうど帰国していた岩崎亨理事に依頼。同理事は宿泊先のニューオータニホテルに出向いて外相と懇談した。とにかくミャンマー人は「そちらで察してくれ」と、引っ込み思案気味のところがあると言われる。

日本政府も、当時の彼らの意向がつかみかねていたところがあったのでないか。

翌年、今度は、私の「在ミャンマー大使館をヤンゴンから首都ネピードに移転せよ」との主張に賛同し、外務省の政務三役会議（大臣・副大臣・政務官で構成）においても、その「提案」を展開してくれた。

残念ながら、2012年4月の野田・ティンセイン会談で、「提案」は陽の目を見なかった。8月の政務三役会議で再提起され、「検討課題にした」と報告してくれた。しかし、実現はしていない。